

大分リハビリテーション病院:ラダー表

レベル	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
<b>レベルの定義</b>	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する。	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する。	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する。
<b>目標</b>	助言を得てケアの受け手や状況（場）のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況（場）の関連や意味をふまえニーズをとらえる
	<p>□疾患や障害に関する情報収集ができる。</p> <p>□観察やデータに基づき正常・異常の判断ができる。</p> <p>□患者を生活者として捉えることができる。</p> <p>□言動から認知機能を評価することができる。</p> <p>□患者の基本的なニーズに関する情報を得ることができる。</p> <p>□患者・家族の精神面に関する情報を整理することができる。</p> <p>□患者・家族の現状に対する認識を把握することができる。</p> <p>□患者、家族に確認しながら基礎情報を得ることができる。</p> <p>□記録や報告・カンファレンスなどから情報を得る事ができる。</p> <p>□患者の社会面に関する情報を整理できる。</p> <p>□生命の危機的状態を把握するためのアセスメント方法が理解できる。</p> <p>□守秘義務の遵守、個人情報保護遵守が理解できる。</p>	<p>□情報収集の4つの側面からケアの受け手の全体像を捉えるために、必要な情報を整理できる。</p> <p>□自立して他職種と情報交換し、必要な情報を収集できる。</p> <p>□得られた情報をもとに、看護上の問題を捉えることができる。</p> <p>□自立して、患者の状態に応じたバイタルサインの観察とフィジカルアセスメントができる。</p> <p>□標準的な、根拠に基づいた看護過程が理解できる。</p>	<p>□ケアの受け手の健康状態全般（発達段階や病期および病態、認知症の有無や健康維持期など）に応じた情報収集ができる。</p> <p>□ケアの受け手の価値観・信念・信条・思いなどを尊重しながら、より深く4つの側面から優先度の高いニーズを判断できる。</p> <p>□個別性を踏まえ生活習慣など患者の状況を捉え入院生活や退院支援に必要な情報を得ることができる。</p> <p>□受け持ち患者の複数の問題から優先順位を明らかにすることができる。</p> <p>□患者の状態から必要に応じて観察項目やケア項目を追加できる。</p>	<p>□複雑な状況（重症者、多重課題・時間切迫下）において、状況や優先度に応じたフィジカルアセスメントを行い、現在の状況判断および予測的な状況判断ができる。</p> <p>□ケアの受け手の精神面における課題を捉えることができる。</p> <p>□ケアの受け手の社会面における課題を捉えることができる。</p> <p>□複雑な状況における意図的な情報（価値観・信念・信条・思い）を統合しニーズを捉えることができる。</p> <p>□ケアの受け手の全体像の論理的整理・看護理論の活用ができる。</p>	<p>□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な課題やニーズが明確化できる。</p> <p>□複雑な状況における疾患や障害による課題を捉えることができる。</p> <p>□意図的なコミュニケーションによりケアの受け手の価値観・信念・信条・思いに応じた判断ができる。</p> <p>□患者の価値観や信条の側面に関するニーズについて、多職種と情報共有し、専門家の介入の必要性を判断できる。</p>
<b>ニーズをとらえる力</b>	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	<p>□看護記録の目的・意義を理解の上、助言を得ながら基礎情報、看護計画、経過記録、看護サマリーの記録ができる。</p> <p>□基本的な日常生活援助技術を、助言を得ながら根拠に基づき安全に実施できる。</p> <p>□患者・家族の意向を配慮して、基本的な日常生活援助技術を実施できる。</p> <p>□助言を得ながら、患者・家族のニーズに沿った症状・生体機能管理技術を実施できる。</p> <p>□記録や口頭確認から、患者に提供されている日常生活援助機能の実施方法が把握できる。</p> <p>□災害発生時の連絡体制について理解し、初期行動を理解できる。</p> <p>□暴言・暴力・ハラスメントに気づき報告できる。</p> <p>□感染予防策の基本を遵守できる。</p> <p>□一次救命処置方法を理解し、技術を習得できる。</p>	<p>□患者の既往歴、年齢、性別、社会的役割等を考慮して、標準的な看護計画に基づきケアを実践できる。</p> <p>□指示の意味を理解でき、正確に指示を受け、診療の補助ができる。</p> <p>□ケアを提供する前に患者・家族に説明しケアを提供することができる。</p> <p>□患者・家族に対してケアを実施する際に必要な情報を得ることができる。</p> <p>□患者・家族の状況に応じた援助ができる。</p> <p>□急変時には、指示されたケアを責任をもって実践できる。</p> <p>□医療安全管理の基準・手順を確実に実施できる。</p> <p>□感染防止対策を理解し、患者・家族に説明できる。</p> <p>□災害発生時の避難方法に沿って行動できる。</p> <p>□緊急時報告ができ、指示を受けて行動できる。</p>	<p>□個別性にあわせて、適切なケアを実施できる。</p> <p>□顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる。</p> <p>□急変時に自立して必要なケアを実践できる。</p> <p>□患者を取り巻く人々（患者家族）へ配慮することができる。（家族の不安を受け止め心情を察しつつ患者に必要なケアを実施できる）</p> <p>□医療安全管理、感染対策の基準・手順を確実に実施し、指導ができる。</p> <p>□チームリーダーとしてインシデントに迅速に対応できる。</p> <p>□災害発生時は確実な状況判断のもと、安全な避難・誘導ができる。</p>	<p>□顕在的・潜在的ニーズに応えるために幅広い選択肢の中からの提案やケアの実践ができる。</p> <p>□幅広い視野で患者・家族をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に実践ができる。</p> <p>□急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、患者および家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる。</p> <p>□医療事故を起こしやすい状況を判断し事故を未然に防ぐ対策の提案ができる。</p> <p>□医療安全、感染予防が図られるようにメンバーの行動に気を配ることができる。</p> <p>□災害発生時の院内体制を理解し、患者と職員の安全を守る行動ができる。</p>	<p>□複雑なニーズに対応するため、法律・制度など看護以外の分野を含め、あらゆる知見を動員し、ケアを実践・評価・追求し創造できる。</p> <p>□あらゆる場面でコミュニケーション能力を発揮し、患者・家族に対応ができる。</p> <p>□患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見を用い、患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実施できる。</p> <p>□急変時は、複雑な病態の患者においても、原因や今後の展開を予測しながら、患者及び家族（または患者を取り巻く人々）への対応と今後への準備ができる。</p> <p>□医療事故・感染発生の原因を分析し、事故防止対策を立案し周知できる。</p> <p>□患者や職員の安全が確保されるように配慮して職場環境を整備できる。</p> <p>□災害対策の企画に参画できる。</p>
<b>ケアする力</b>	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる。	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	<p>□看護チームの一員であることを理解し、日々の患者のケアを、他の看護師と協働して行うことができる。</p> <p>□自己の能力を超えた看護が求められる場合には、支援や指導を自ら得たり、チーム員に相談できる。</p> <p>□助言を得ながら関連各部門・多職種の役割が理解できる。</p> <p>□助言を受けて当院の医療チームについて理解できる。</p> <p>□カンファレンスに参加し、発言することで、自らのもつ情報を提供して関係者と共有することができる。</p>	<p>□患者に関わる多職種と医療チームの役割を理解し、チームの一員として協力ができる。</p> <p>□患者の表出した訴えや受け止めている思いを医師に伝えることができる。</p> <p>□患者の疾患の現状、検査結果、治療方針を主治医と共有することができる。</p> <p>□患者のケアに必要な職種やチームの介入をリーダーに提案することができる。</p>	<p>□患者の個別的で潜在的なニーズを把握し、必要な職種がわかり、介入を依頼することができる。</p> <p>□院内多職種と情報交換し支援の方向性を明確にできる。</p> <p>□看護師の役割を遂行するとともに多職種の状況を把握することができる。</p> <p>□患者家族の望む暮らしや希望、今後の療養先などの個々の意向やニーズを基に、患者の病状と状況をアセスメントし、支援内容を患者家族と意見交換することができる。</p> <p>□定例のカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めて必要な人員を調整しカンファレンスの場を作ることができる。</p>	<p>□患者の病状を顕在的、潜在的予測をしながら診療報酬等社会制度も理解した上で個別性にあつた地域の社会資源がわかる。</p> <p>□カンファレンスにおいては、連携が促進されるようにファシリテートすることができる。</p> <p>□退院後のケアの提供者に情報提供することができる。</p> <p>□多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との調整ができる。</p>	<p>□複雑な状況（場）の中で、患者のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる。</p> <p>□多職種連携を十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる。</p> <p>□関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる。</p> <p>□目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる。</p>
<b>協働する力</b>	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	<p>□助言を受けながら、患者や患者を取り巻く人々の思いや考え、希望を知ることができる。</p> <p>□患者や家族の思いや考え、希望を多職種・リーダー看護師等に伝えることができる。</p> <p>□人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する行動ができる。</p> <p>□看護専門職としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動できる。</p> <p>□倫理的問題に気づき、相談できる。</p>	<p>□患者・家族や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる。</p> <p>□患者・家族や周囲の人々の思いや考え、希望をケアに関連づけ、ケアに反映させることができる。</p> <p>□患者や家族の迷いや認識のずれに気づき、リーダーに報告することができる。</p> <p>□看護専門職としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動できる。</p> <p>□倫理的問題に気づき、問題提起ができる。</p>	<p>□患者や家族（または患者を取り巻く人々）の意思決定に必要な情報を提供する。</p> <p>□患者・家族の希望が異なる時に、それぞれの価値観と向き合い、情報を整理し多職種に代弁できる。</p> <p>□患者・家族に各医療チームについて紹介することができる。</p> <p>□倫理的問題について話し合える。</p>	<p>□チームで患者・家族の最善を検討し、考えられた選択肢を提示して、意思決定を支援できる。</p> <p>□患者や家族（または患者を取り巻く人々）、医療スタッフの意向が異なる場合において、意向の違いの原因をとらえ、カンファレンスを開催し、調整することができる。</p> <p>□複雑な意思決定場面において、患者・家族に寄り添い、心の揺らぎを受け止め、支え続けることができる。</p>	<p>□複雑な意思決定が必要な場合、多職種チームを活用・調整し、意思決定プロセスを支援することができる。</p> <p>□法的小および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる。</p> <p>□複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる。</p>
<b>意思決を支える力</b>	社会人・組織人としての自覚をもち行動する	専門職業人として、所属部署で役割を果たす	所属部署のチーム全体の状況を捉えて行動する	所属部署で、専門的役割、または指導的役割を遂行する	所属を超えて、看護部や病院全体、地域社会から求められる役割を遂行する
	<p>□看護部の理念・方針・所属部署の目標が理解できる。</p> <p>□助言を受け、部署目標達成のための自己目標を設定し、行動ができる。</p> <p>□チームメンバーとしての役割を理解して行動できる。</p>	<p>□部署目標達成のための自己目標を設定し行動できる。</p> <p>□自動リーダー業務が遂行できる。</p> <p>□チーム活動において自分の役割を認識し他のスタッフと協力して行動できる。</p> <p>□日常看護に根拠をもち、後輩を指導できる。</p>	<p>□部署目標達成のためのチーム目標を設定し、達成のために具体策を計画できる。</p> <p>□看護チームリーダーの仕事を理解しリーダー業務ができる。</p> <p>□夜勤、休日のリーダー業務ができる。</p> <p>□同僚の能力を引き出ししながら意図的・継続的に関わることができる。</p>	<p>□部署目標の課題解決に向けて対策の立案・実施・評価ができる。</p> <p>□主任を補佐し、不在時には代行ができる。</p> <p>□看護部内の委員会活動を推進できる。</p> <p>□他のメンバーのロールモデルとして活動できる。</p> <p>□部署内での倫理的問題に師長と協力して取り組むことができる。</p>	<p>□看護師長を補佐し、不在時には代行ができる。</p> <p>□院内の委員会活動を推進できる。</p> <p>□病院や看護部の課題解決に向けて部署の目標を設定できる。</p> <p>□専門分野の看護の質向上に向けて院内組織横断的活動ができる。</p> <p>□部署および看護部全体の倫理的行動力向上のための取り組みができる。</p>
<b>組織的役割遂行</b>	指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気付く	自己の教育的課題を見出す	自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開する	自己の教育活動に積極的に取り組むと共に、指導的な役割を実践する	専門領域や高度な看護技術などについて、自己教育活動を展開する
	<p>□部署における代表的な疾患、治療について自ら学習できる。</p> <p>□院内研修や部署の勉強会に参加し学習できる。</p> <p>□院内発表会に参加し学習できる。</p>	<p>□院内発表会や関連学会に参加し学習できる。</p> <p>□業務改善・研究に協力できる。</p> <p>□院内発表会や関連学会に参加し学習できる。</p> <p>□目標を持って院内外の教育プログラムに参加できる。</p> <p>□自分の学習課題を見出し学習計画を設定できる。</p>	<p>□看護研究に取り組み発表ができる。</p> <p>□研究の成果を日常の看護に活かすことができる。</p> <p>□援助を受けながら所属部署の教育プログラムの企画・運営に参画できる。</p> <p>□院内外の研修、学会に参加できる。</p>	<p>□自分のキャリアアップのための研修に参加できる。</p> <p>□所属部署の教育プログラムの企画・運営に参画できる。</p> <p>□指導者講習、認定看護師研修、ファーストレベルなどの長期研修に参加できる。</p> <p>□ケーススタディーの助言・指導ができる。</p>	<p>□教育担当者として部署内の教育ができる。</p> <p>□研究活動を指導できる。</p> <p>□指導者講習、認定看護師研修、ファーストレベルなどの長期研修に参加できる。</p> <p>□キャリアアップ、認定更新に必要な研修に参加できる。</p> <p>□専門領域や教育的課題の達成に向けた学会に所属できる。</p>
<b>教育・研究</b>	指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気付く	自己の教育的課題を見出す	自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開する	自己の教育活動に積極的に取り組むと共に、指導的な役割を実践する	専門領域や高度な看護技術などについて、自己教育活動を展開する
	<p>□部署における代表的な疾患、治療について自ら学習できる。</p> <p>□院内研修や部署の勉強会に参加し学習できる。</p> <p>□院内発表会に参加し学習できる。</p>	<p>□院内発表会や関連学会に参加し学習できる。</p> <p>□業務改善・研究に協力できる。</p> <p>□院内発表会や関連学会に参加し学習できる。</p> <p>□目標を持って院内外の教育プログラムに参加できる。</p> <p>□自分の学習課題を見出し学習計画を設定できる。</p>	<p>□看護研究に取り組み発表ができる。</p> <p>□研究の成果を日常の看護に活かすことができる。</p> <p>□援助を受けながら所属部署の教育プログラムの企画・運営に参画できる。</p> <p>□院内外の研修、学会に参加できる。</p>	<p>□自分のキャリアアップのための研修に参加できる。</p> <p>□所属部署の教育プログラムの企画・運営に参画できる。</p> <p>□指導者講習、認定看護師研修、ファーストレベルなどの長期研修に参加できる。</p> <p>□ケーススタディーの助言・指導ができる。</p>	<p>□教育担当者として部署内の教育ができる。</p> <p>□研究活動を指導できる。</p> <p>□指導者講習、認定看護師研修、ファーストレベルなどの長期研修に参加できる。</p> <p>□キャリアアップ、認定更新に必要な研修に参加できる。</p> <p>□専門領域や教育的課題の達成に向けた学会に所属できる。</p>